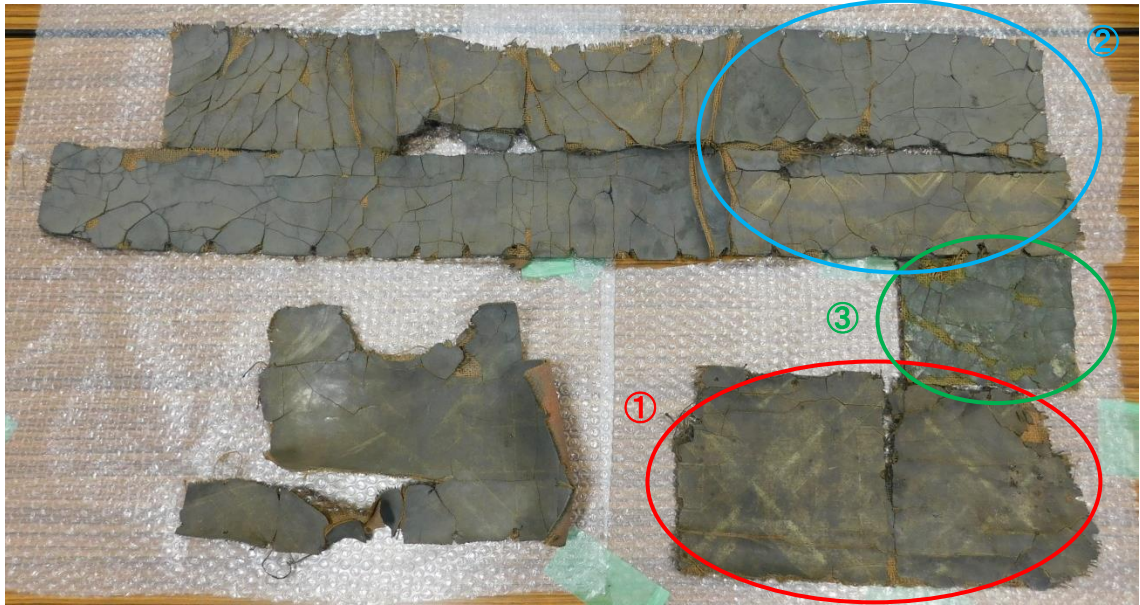


小屋裏(附属棟)に保管されていたリノリウム(2階大広間3点、1階受付室1点)



①のリノリウム(2階大広間・当初材)



たすき模様に口と△を組み合わせた幾何学模様
たすき中央と柄ごとを白線で縁取り

①拡大



ダークブラウン・ブラウン・ホワイト(クリーム)の3色
ダークブラウン(母材)の上にブラウンの柄を印刷し
縁取りの白線を最後に載せている

①断面拡大



リノリウムの母材の色調はダークブラウンと同系
表面の塗料厚は薄いけど定着はしっかりとしている

②のリノリウム(2階大広間・当初材)



たすき模様の中は口を重ねた三桝文のような模様

①の幾何学模様と交互に②の模様が配置される

①と同じダークブラウン・ブラウン・ホワイト(クリーム)の3色

②拡大



着色(印刷)の順番は①と同じ
縁取り線がぼやけたようになっているのは表面がすり減ったためのも
のか、版木によるものかは不明

③のリノリウム(下:旧函館区公会堂1階受付室、上:門司港駅本屋参考資料)



柄・寸法は門司港駅舎のものと同じ、配色もほぼ同じものと見受けられる
旧函館区公会堂のものは当初まで遡れる可能性あり
門司港駅本屋のものは後補材で大正から昭和初期のものと推定されている

③拡大 (左:旧函館区公会堂、右:門司港駅本屋)



ダークグリーンの母材をグリーンで縁取りして幾何学模様を作る
□と△の幾何学模様と花柄模様を交互に配置
ダークグリーン・グリーン・ライトグリーン・ブルグリーン・ダークレッド・ホワイトの6色
ダークグリーン(母材)の上に各色を印刷
絞り柄はグリーン・ブルグリーン・ライトグリーンの3色を柄毎に塗り分けて配色しているが、旧函館区公会堂のものは摩耗が激しいため不明